

イサクは主の御名を呼ぶ

キー・ヴァース「イサクはそこに祭壇を築き、主の御名を呼び、そこに天幕を張った。

創世記26:25

厳選された聖典

創世記26:16-33

この重要な箇所は、イサクが飢饉の時代に寄留した集大成に焦点を当てている。イサクは当初、ナイル川の安定した氾濫によって食糧と水が事実上保証されているエジプトに下ることを考えていたのかもしれない。父アブラハムはこの戦略をとった。(創世記12:10参照) しかし、イサクはエホバから約束の地にとどまるように指示された。神は、ご自身の民を維持する能力を示すために、客観的な教訓を与えようとされたのだ。主はイサクに安易な道を歩ませたくなかったのだ。教訓のポイント：非常に困難な状況であっても、神は与えてくださる。

水は飢饉を生き延びるために不可欠である。イサクは、父親がこの地に掘った井戸を思い出し、

、その井戸を探し出し、貴重な水の流れを新しくしようとした。井戸はどうなったのか？ペリシテ人が井戸を塞いで使えなくしたのだ。聖書の記録によれば、イサクは「ゲラルの谷に天幕を張り、そこに住んだ。イサクは、父アブラハムの時代に掘っていた井戸を再び掘った。アブラハムの死後、ペリシテ人が井戸をせき止めてしまったからである。創世記26:17,18; 21:25-31

父の信仰の記憶に対する敬意と尊敬が、井戸に過去の呼び名に従った名前を付けたいというイサクの願いに影響を与えた。これは、エレミヤのメッセージの精神に非常に近い：岐路に立って見よ。古き道を尋ね、良い道はどこかを尋ね、その道を歩め。(エレミヤ6:16) 私たちは、先祖たちが歩んだ "古道"を守るのがよい。そのような道は、地上で最も深い水の井戸である聖書の中に明らかにされており、そこから真理の生ける水が湧き出ている。

イサクは、アブラハムの井戸を再び掘るよう、しもべたちに指示した。最初の井戸から水が湧き出ると、喜びもひとしおだった。喜びも束の間だった。地元の牧畜民たち（
）が、イサクのしもべたちに「この水は俺たちのも

のだ」と言ってけんかしたのだ。イサクはその井戸を放棄し、"争い"を意味する"エセック"と名付けた。イサクのしもべたちは次の井戸を掘ったが、結果は同じだった。ゲラルの牧人たちは彼らと口論し、イサクは再びその井戸を見捨て、"反対

"を意味するシトナと呼んだ。神の約束への執着と信仰がイサクの決意を強め、彼は父の井戸を回復する仕事を続けた。創世記26:19-21

新しく修理された3番目の井戸からも水が湧き、その権利について争いはなかった。イサクはその井戸を"広い場所"という意味の"レホボテ"と名づけた。「主がわれわれのために場所を設けられたので、われわれはこの地で実を結ぶであろう。(22節)この喜びは、詩篇の「主はまた、わたしを広い所に連れ出し、わたしを喜ばせ、わたしを救い出された。(詩篇18:19) こうしてイサクは、父アブラハムがしたように、主の御名を呼ぶように促された。

現代の否定的な人々は、神の民が聖書という生きた水を得ることを否定するだろう。主はいつものように、私たちに与えてくださる。イサクがそうであっ

たように、私たちは喜び勇んで、救い主である主の御名を呼ぶ。